



平成 23 年 2 月 14 日

各 位

株式会社 アプリックス

東京都新宿区西早稲田二丁目 18 番 18 号
(コード番号：3727 東証マザーズ)
代表者 代表取締役 郡山 龍
問合せ先 執行役員 (財務担当) 伊藤 洋
電話番号 03-5286-8436

(訂正・数値データ訂正あり) 「平成 22 年 12 月期 通期業績の予想修正に関するお知らせ」

平成 23 年 2 月 10 日に発表しました標題の開示資料の参考データであります前年実績について訂正がありましたので、お知らせいたします。また、数値データにも訂正がありましたので訂正後の数値データも送信いたします。

記

(訂正箇所) 訂正部分に下線を付してあります。

【訂正前】 1. 平成 22 年 12 月期通期業績予想の修正 (平成 22 年 1 月 1 日～平成 22 年 12 月 31 日)

(1) 連結

(単位: 百万円)

	連結売上高	連結営業利益	連結経常利益	連結当期純利益	一株当たり連結 当期純利益
前回発表予想 (A)	10,000	400	372	286	円銭 2,822.74
今回修正予想 (B)	9,446	211	163	333	円銭 3,294.94
増減額 (B)-(A)	△554	△189	△209	47	
増減率 (%)	△5.5	△47.2	△56.1	16.7	
(ご参考) 前期実績 (平成 21 年 12 月期)	3,537	△1,008	△1,051	△1,424	円銭 <u>14,059.08</u>

【訂正後】 1. 平成 22 年 12 月期通期業績予想の修正 (平成 22 年 1 月 1 日～平成 22 年 12 月 31 日)

(1) 連結

(単位: 百万円)

	連結売上高	連結営業利益	連結経常利益	連結当期純利益	一株当たり連結 当期純利益
前回発表予想 (A)	10,000	400	372	286	円銭 2,822.74
今回修正予想 (B)	9,446	211	163	333	円銭 3,294.94
増減額 (B)-(A)	△554	△189	△209	47	
増減率 (%)	△5.5	△47.2	△56.1	16.7	
(ご参考) 前期実績 (平成 21 年 12 月期)	3,537	△1,008	△1,051	△1,424	円銭 <u>△14,059.08</u>

(理由) 平成21年12月期通期の一株当たり連結当期純利益の表示を誤って記載いたしましたので、訂正するものであります。

以上

ご注意：本プレスリリースは、当社の事業内容等に関する情報の提供を目的としたものであり、当社株式の投資勧誘を目的とするものではありません。
本資料の内容には、将来の業績に関する予測等の情報を掲載することがありますが、これらの情報は、資料作成時点の当社の判断に基づいて作成されております。
よって、その実現を約束するものではなく、また今後予告なしに変更されることがあります。



平成23年2月10日

各位

上場会社名 株式会社アブリックス
 代表者 代表取締役 郡山 龍
 (コード番号 3727)
 問合せ先責任者 執行役員(財務担当) 伊藤 洋
 (TEL 03-5286-8436)

平成22年12月期 通期業績の予想修正に関するお知らせ

最近の業績の動向を踏まえ、平成22年2月15日に公表した平成22年12月期(平成22年1月1日～平成22年12月31日)通期の業績予想を下記のとおり上方修正いたします。

記

● 業績予想の修正について

平成22年12月期通期連結業績予想数値の修正(平成22年1月1日～平成22年12月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	10,000	400	372	286	2,822.74
今回発表予想(B)	9,446	211	163	333	3,294.94
増減額(B-A)	△554	△189	△209	47	
増減率(%)	△5.5	△47.2	△56.1	16.7	
(ご参考)前期実績 (平成21年12月期)	3,537	△1,008	△1,051	△1,424	△14,059.08

平成22年12月期通期個別業績予想数値の修正(平成22年1月1日～平成22年12月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	3,950	50	5	△94	△927.75
今回発表予想(B)	4,080	231	228	158	1,565.75
増減額(B-A)	130	181	223	252	
増減率(%)	3.3	362.7	4,468.4	—	
(ご参考)前期実績 (平成21年12月期)	3,335	△1,052	△1,179	△1,530	△15,110.39

修正の理由

当社グループの中核事業であるソフトウェア基盤技術事業では、急拡大するスマートフォン市場において、新製品のemblem d が国内通信事業者3社に採用され、出荷台数が伸びております。また、基幹製品であるJBlendにおいて海外メーカーからのロイヤリティ収入が順調であったことに加え、大口かつ利益率の高い海外案件を締結したことが売上を押し上げる要因となっております。

また、昨今の急激な市場環境の変化から、スマートフォン関連製品に関する開発委託などの需要により技術支援売上が増加し合わせて売上原価も増えており、当初予測より営業利益、経常利益が減少しております。

一方、コンテンツ・サービス等事業は、公式コンテンツ配信においては、追加課金型コンテンツの積極投入、ユーザー導線の拡張による集客力の強化、退会率の抑止等に取り組むとともに、多彩なジャンルのソーシャルアプリを積極的に投入するなど、事業推進体制の強化に注力し、国内市場において従来型携帯端末の販売台数が依然として前年を下回って推移する中、当会計年度に連結子会社とした株式会社ジー・モードは前年度の売上高をほぼ確保できる見込みです。

なお、国内外共に今期はスマートフォン対応に注力したためエマージングマーケット向けの拡販については来期に持ち越すこととなり、当期予定していた売り上げは今期計上されませんでした。

これらに加え、連結業績において株式会社ジー・モードの株式取得に伴う負ののれん発生益等が当期純利益に寄与しており前回の当社予想を上回る見通しとなりました。

※上記に記載した予想数値は、現時点で入手可能な情報に基づき作成したものであり、多分に不確定な要素を含んでおります。実際の業績等は、今後の様々な要因によって上記予想数値と異なる場合があります。

以上